

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立四谷第六小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月25日】

授業作り	重 点	児童の問いを重視した学習、タブレット端末を効果的に活用した授業を展開する。
環境作り		学習に向かいやすい教室環境を整え、個に応じた学習指導をする。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな、カタカナ、漢字を確実に身に付け、正しく丁寧に書けるようにする。 ・語彙を増やす。 ・話すこと、聞くことの力を付け、自分の知らせたいことをすすんで話したり、相手の話を最後まで聞いたりすることができるようにする。 ・10までの加減の計算方法を確実に身に付け、正確に計算する。計算の仕方を図やブロックを使って表せるようにする。 ・計算を早く、正確にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の学習はデジタルドリルやプリントを活用して反復練習をし、定着を図る。 ・しりとりやクイズなどのゲームを通してさまざまな言葉に触れられるようにする。 ・ペアで話をする時間を積極的に取り入れる。話を聞く姿勢等、基本的な話の聞き方の指導を重視する。 ・デジタルドリルやプリント、計算カード等を活用し、計算練習を繰り返し行い、定着を図る。 ・ブロックや図、言葉を用いて自分の考えを表す場面を設定し、それらを使って発表できるようにする。 ・フラッシュカードや繰り返し上がり・繰り返し下がりのある計算を取り入れた活動を授業の始めに行い、楽しみながら計算力を身に付ける。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名（拗音などを含む）・カタカナ・漢字を正しく書けるようにする。 ・話すこと、聞くことの力を付け、自分の伝えたいことを理由付けや順序に気をつけて話したり、相手の話を最後まで聞いたりすることができるようにする。 ・筆算も含めた加法、減法の計算の習熟を図り、正確に計算できるようにする。また、かけ算九九は、暗唱できるようにする。 ・時計を正確に読めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字や計算の学習はデジタルドリルやプリント等を活用して反復練習をし、定着を図る。 ・話を聞く姿勢等、基本的な話の聞き方の指導を重視する。 ・ペアで話をする時間や簡単なスピーチを積極的に取り入れる。 ・具体物の操作活動を多く取り入れ、ブロックや図、言葉を用いて自分の考えを表す場面を設定し、それらを使って発表できるようにする。 ・普段から時計を見て行動するように声を掛け、時間を意識できるようにする。

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査は、国語が0.9ポイント、算数が5.3ポイント区平均よりも低い。 ・国語・算数ともに、応用問題よりも基礎問題の方が区平均より低く、基礎の定着を図っていく必要がある。 ・領域別でみると、国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「数と計算」「データの活用」の正答率が特に区平均より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名（拗音などを含む）、カタカナ、漢字を確実に身に付け、正しく丁寧に書けるようにする。 ・加法、減法、乗法の計算の習熟を図り、正確に計算できるようにする。 ・既習事項を確認しながら、その内容を応用していけるようにする。 ・自分の考えを話したり、書いたりして人に自分の思いを伝えられるようにする。 ・相手を意識した話し方をしたり、話をよく聞いて内容を理解したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリル等を活用して反復練習をし、定着を図る。 ・九九が身に付いていない児童に対しては、個別指導を行ったり、反復練習を行ったりし、確実にかけ算九九を唱えられるようにする。 ・課題を解決する前に、既習事項を確認したり、考えを発表する際に既習事項を使って説明したりできるように声を掛ける。 ・文章を書く前に、文章の構成を考えさせる。構成を考えることを反復練習し相手に伝わりやすい文章を書けるよう定着を図る。 ・相手に伝わりやすい話し方の工夫を指導する。また、集中して話を聞く環境を作り、話し合い活動を意図的に取り入れる。 ・児童の問いを引き出す発問を精選したり、児童が学習課題を決定したりする時間を確保する。
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査は、国語、算数ともに、区の平均を上回っている。特に国語の「応用」分野は区の平均を大きく上回っている。 ・国語、算数ともに、どの観点や領域でも区の平均を上回っているが、国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「数と計算」の領域は他の領域に比べると、正答率が低い。 ・国語・算数ともに学習理解における個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を正しく読んだり書いたりすることができるようにする。 ・話し手の伝えたいことを捉えたり、自分の考えと比べながら相手の考えを聞いたりすることができるようにする。 ・自らすすんで学習に取り組めるようにする。 ・算数の活動の中で、自分の考えを簡潔に説明できるようにする。 ・「数と計算」の領域において、前学年までの学習内容を確実に身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルや小テストなどを活用し、漢字の反復練習を行い、定着を図る。 ・授業の中でペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、「話すこと・聞くこと」の活動量を増やす。 ・自主学習を通じて、児童が自分の興味・関心に応じた学習に取り組むことができるようにする。 ・式の意味や解き方などについて説明する活動を取り入れる。その際、自分の考えを言葉や図などに表す方法を指導する。 ・単元の導入場面でこれまでの学習を振り返るなど、前学年までの学習とのつながりを意識して授業を展開する。 ・児童の問いを引き出す発問を精選したり、児童が学習課題を決定したりする時間を確保する。
<p>5 学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査は、国語・算数ともに、区平均を上回っている。 ・国語は、「書くこと」の領域に課題が 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を確実に身に付け、正しく書くことができる。 ・計算などの基礎学力の定着を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用した反復練習や小テストを活用して定着度を確認する。

<p>年</p>	<p>見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数ともに学習理解における個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話のまとまりを意識して、文を書くことができるようにする。 ・文章の内容を正しく読み取り、理解することができるようにする。 ・自ら進んで学習に取り組めるようにする。 ・定規、コンパス、分度器を用いて、正確に作図できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く目的や相手を明確にして文章を書き、書いた後は互いに読み合う時間を確保する。 ・文章の要点を確認し、内容を理解してから課題に取り組むことができるようにする。 ・課題設定を重視したり、自主学習の内容を互いに共有し合う時間を設けたりする。 ・日常から定規等を正しく使う場面を設定し、プリント学習を中心に個に応じた学習に取り組めるようにする。 ・児童の問いを引き出す発問を精選したり、児童が学習課題を決定したりする時間を確保する。
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、国語・算数ともに、教科総合正答率は区の平均を上回っている。 ・国語「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、算数「式と計算」の領域の正答率が区の平均よりも低く課題である。 ・算数に比べ、国語の学力層の下位分布が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しい筆順で丁寧に書くことができるようにする。 ・既習漢字や句読点を正しく活用することができるようにする。 ・計算などの基礎学力の定着を図る。 ・目的のあるコミュニケーションができるようにする。 ・作図を正確にできるようにする。 ・文章の内容を正しく読み取り理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルや小テストなどを活用し、漢字の反復練習を行い、定着を図る。 ・課題プリントなど書く活動で、既習漢字や句読点の指導を行う。 ・デジタルドリルを活用した反復学習を行い、計算などの基礎学力の定着を図る。 ・朝の会でテーマを決めたスピーチを行う等、国語以外の学習でも話す機会を設ける。 ・教科書の問題だけでなくプリント等も使い、作図を行う回数を増やす。 ・文章の要点を確認し、内容を整理してから課題に取り組む。 ・児童の問いを引き出す発問を精選したり、児童が学習課題を決定したりする時間を確保する。